

何のために勉強するの？

右の写真の像は、学校などでよく見られますが、みなさんは誰の像か知っていますね。では、この像の人物、二宮金次郎（尊徳）は何をした人か知っていますか。この姿から家の手伝い（薪運び）をしながら勉強していたと聞いている人が多いと思います。

彼は、相模国（今の神奈川県）の農家に生まれました。小さい頃から家計が苦しく、その生活を少しでも良くしようと、両親を助けて働こうとするのですが、幼く体力もない彼は足手まといになるだけでした。そこで、知恵を絞って他の人たちの仕事がより楽になるよう工夫しようとしたのです。これが二宮金次郎の学問の始まりでした。

ところが、父親が早くに亡くなり、更にもうその分まで働かなければならなくなりました。勉強のためにまとまった時間をとることなどほとんどできません。そこで、薪運びの仕事ですら、本を読んで勉強していたのです。銅像には、そうした頃の姿が表現されています。14～15歳ぐらい、ちょうどみなさんと同じぐらいの年齢ですね。



金次郎は何のために勉強したのだろう

彼は自分の生活をより豊かにするために学問はあると考えていたそうです。やがて、より進んだ農業技術など、たくさんの方を学んだ金次郎のもとに、多くの方が相談に来ます。彼はその一人一人に、学んできた知識を惜しげもなく伝えていきました。中にはお殿様がやってきて「藩の財政がとても貧しく、人々が苦しんでいる村を何とかして欲しい」と頼まれたこともあったそうです。

二宮金次郎が人々に伝えたのは、簡単に言うと次の三つです。

『誠実に生きること』 『一生懸命働くこと』 『節約すること』

農民一人一人には、心の底から喜びと自然への感謝を感じながら働くように説きました。最初は金次郎のやり方に反対する者もいましたが、彼自身が誠実に教えるを説いていった結果、農民たちの心は変わり、村は豊かになりました。その後も日本中の数多くの村を立て直し続けた、そんな人物が二宮金次郎です。彼の学び続ける姿勢と誠実な生き方をお手本にしてほしいと、全国の学校に二宮金次郎像が置かれるようになったそうです。

私たちはなぜ学ぶのか ～夢を実現するためのツールとして～

社会全体が発展し、勉強したことがすぐ生活に繁栄されるようなことは数少なくなりました。しかし、自分やまわりの人の将来を考えたとき、学ぶことによって様々なチャンスが生まれ、大きくなります。勉強すればするほどできることが増え、助けられる人の数も増え、自分の生活も他人の生活も豊かになっていきます。自分自身も、そして他人も幸せにすることができるのが学びの素晴らしさといえるのではないのでしょうか。

いよいよ期末テストです。今まで習ったことが身に付いているかどうかを確認するチャンスです。今からでも遅くありませんよ。



